

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010E1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	岩田 安晴		
授業担当教員名(科目責任者)	岩田 安晴		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岩田 安晴		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	yiwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜日授業終了後		
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	学習意欲を持って楽しんで取り組んでください。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010E2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	岡田 裕正		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 裕正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 裕正		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010E3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	工藤 健		
授業担当教員名(科目責任者)	工藤 健		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	工藤 健		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010E4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	土橋 力也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 力也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 力也		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010E5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	星野 光秀		
授業担当教員名(科目責任者)	星野 光秀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	星野 光秀		
科目分類	共通基礎科目、共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140561001050	科目番号	05610010
授業科目名	●情報処理入門		
編集担当教員	鈴木 斉		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉		
科目分類	情報処理科目、情報処理科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館MS 1		
対象学生 (クラス等)	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	sigh@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館 631		
担当教員TEL	095-820-6372		
担当教員オフィスアワー	講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。		
授業の概要及び位置づけ	<p>授業の概要 情報化が進んだ現代において、「情報を使いこなす力」(情報リテラシー)が生活する上での「生きる力」の一つとなっている。長崎大学では、学生が生涯にわたって主体的な学修を行っていくための基礎として、情報リテラシーを1年次で身につけることとしている。本科目では、情報リテラシーの習得を目的として、情報機器や情報システム、ネットワークといった技術的知識、情報セキュリティや情報倫理などの生活知識を身に付けるとともに、様々な情報システムやソフトウェアの活用技術を習得する。</p> <p>授業の位置づけ 本科目は教養教育における情報科学科目である。</p>		
授業到達目標	<p>授業到達目標： 情報端末を正しく用いて情報を扱う情報リテラシーが身につくことを到達目標とする。この目標を達成するために、以下のサブ目標を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器やネットワークの機能に関わる基本的事項を説明できる ・情報機器やネットワークを利用する際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる ・インターネット(Web)、電子メール、プレゼンテーション、文書作成、表計算を基本的に理解し、操作方法や活用方法を説明できる ・情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できる 		
授業方法 (学習指導法)	<p>授業方法： 授業は、講義と演習とを組み合わせ進めます。講義内容の理解を深めるために各自が所有する必携パソコンを利用して操作演習を行う演習課題や自習課題を出します。主体的学修促進支援システム (LACS) を、授業資料や演習課題の提示、課題回収や返却、各種連絡等に活用します。</p>		

授業内容	授業内容 原則として以下の内容に沿って授業を進めるが、進捗や理解度の状況に応じて若干の変更を行うことがあります。																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス1 授業方法の説明、必携パソコンの初期設定、無線LAN接続実習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ガイダンス2 LACS紹介、Office365セットアップ、電子メール利用実習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>表計算1 Microsoft Excelの機能、基本操作、セルの参照、数式、表の書式設定</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>表計算2 グラフ作成・印刷、関数、複数シートを使ったデータ処理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表計算3 条件設定、複合グラフの作成、データの検索</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>表計算4 ピボットテーブル、マクロ活用</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>文書作成1 Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式 (1)、ページの設定</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文書作成2 段落の書式 (2)、オブジェクトの操作、表の作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>文書作成3 Word・Excel連携演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーション2 プレゼンテーション実習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合演習</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>まとめ、試験</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	ガイダンス1 授業方法の説明、必携パソコンの初期設定、無線LAN接続実習	2	ガイダンス2 LACS紹介、Office365セットアップ、電子メール利用実習	3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策	4	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成	5	表計算1 Microsoft Excelの機能、基本操作、セルの参照、数式、表の書式設定	6	表計算2 グラフ作成・印刷、関数、複数シートを使ったデータ処理	7	表計算3 条件設定、複合グラフの作成、データの検索	8	表計算4 ピボットテーブル、マクロ活用	9	文書作成1 Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式 (1)、ページの設定	10	文書作成2 段落の書式 (2)、オブジェクトの操作、表の作成	11	文書作成3 Word・Excel連携演習	12	プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて	13	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化	14	プレゼンテーション2 プレゼンテーション実習	15	総合演習	16	まとめ、試験
	回	内容																																	
	1	ガイダンス1 授業方法の説明、必携パソコンの初期設定、無線LAN接続実習																																	
	2	ガイダンス2 LACS紹介、Office365セットアップ、電子メール利用実習																																	
	3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策																																	
	4	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成																																	
	5	表計算1 Microsoft Excelの機能、基本操作、セルの参照、数式、表の書式設定																																	
	6	表計算2 グラフ作成・印刷、関数、複数シートを使ったデータ処理																																	
	7	表計算3 条件設定、複合グラフの作成、データの検索																																	
	8	表計算4 ピボットテーブル、マクロ活用																																	
	9	文書作成1 Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式 (1)、ページの設定																																	
	10	文書作成2 段落の書式 (2)、オブジェクトの操作、表の作成																																	
	11	文書作成3 Word・Excel連携演習																																	
	12	プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて																																	
	13	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化																																	
	14	プレゼンテーション2 プレゼンテーション実習																																	
15	総合演習																																		
16	まとめ、試験																																		
キーワード	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、ネットワーク社会																																		
教科書・教材・参考書	教科書: 「情報基礎」(生協のみで購入可能。一般書店では入手できません)。 教科書の購入を条件に、授業の講義資料(1冊)を授業時に配布します。 教材: 必要に応じて、資料や課題などをLACSにて公開します。																																		
成績評価の方法・基準等	定期試験 30% コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します。 演習課題 60% 機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します。 授業への参加状況 10% 作業指示に従わない場合や演習妨害等の行為を減点とします。																																		
受講要件(履修条件)	Windows 8.1～7及びMS-Office Professional/Home&Business 2013/2010がインストールされたノートPC及びACアダプタを毎回必ず持参すること。 ※上記のMS-Office製品がインストールされていない場合、長崎大学生協にてOffice365の年間ライセンスまたはMS-Office Professional Academicを購入のこと。																																		
備考(URL)	https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/																																		
学生へのメッセージ	コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。																																		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140566001050	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	人文・社会科学科目、人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	夜間 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	文教町キャンパス 工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー	基本的には講義終了後講義室，またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業の概要及び位置づけ	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部にも所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業到達目標	この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。		
授業方法（学習指導法）	講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学習としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。 講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。		
	<p>“ものづくり”の手順，“もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミ</p>		

授業内容	<p>スについて,実態と対策を考える。</p> <p>第 1 回 講義の概論, 講義の目的,"ものづくり"の成果 第 2 回 "ものづくり"の成果と破壊事故分析 第 3 回 力に対する材料の限界, 破壊とは 第 4 回 最近の事故例における発生の背景 第 5 回 事故例と事故分析 第 6 回 工学的安全システムの有効・無効 第 7 回 "ものづくり"における『安全』とは 第 8 回 "ものづくり"における安心と市民の『安心』とは 第 9 回 技術者の責任と市民の責任 第 10 回 人が犯すミスとその背景, および体験 第 11 回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験 第 12 回 思い込みと錯覚による安全喪失 第 13 回 外部情報と脳の受容情報 第 14 回 人の理解と脳の理解, その行動 第 15 回 安心文化の醸成のためには</p>
キーワード	破壊事故, 医療事故, 組織事故, 安心・安全, ヒューマン・ファクタ, 脳科学, 認知科学
教科書・教材・参考書	教科書は用いず, 教員作成の講義資料(プロジェクト), ビデオ, 配布資料, 実験資料によって行う。 必要に応じて, 参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は, 不合格とする。 課題レポートでは, 自分自身の多面的な考察, 意見, 感想のみを評価し, 講義内容を記した部分は評価対象外とする。 レポートでの得点で合格に達した者については, 受講態度や自主学習を考慮して, 成績を報告する。
受講要件(履修条件)	欠席は認めず, 全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ, 個別指導を行う。 なお, 高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。
備考(URL)	
学生へのメッセージ	準備は必要ないが, 講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140566005050	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(社会科学からみた安全・安心)		
編集担当教員	村田 嘉弘		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 嘉弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 嘉弘		
科目分類	人文・社会科学科目、人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	ymurata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館5階507室		
担当教員TEL	095-820-6343		
担当教員オフィスアワー	講義終了後1時間		
授業の概要及び位置づけ	企業・団体ばかりでなく個人が購入可能な金融商品について、仕組みと、リスクとリターンとの関係について理解する。金融商品のリスクの計算・シミュレーションを通して、金融における安心・安全の考え方について正しい理解ができるようになる。		
授業到達目標	金融商品の説明書に書かれている項目の意味が理解できるようになること（⑦⑨）、また、それにより、その商品のリスクを自分で判断できるようになること（①②⑩）、更には、自分で簡単なシミュレーションを行えるようになること（①）を目標とする。		
授業方法（学習指導法）	「安全で安心できる社会」のモジュールI科目「リスク社会と社会科学」とこのモジュールII科目「社会科学からみた安心・安全」で金融リスクに関する1冊の教科書を読み通す。最初の科目で、教科書の1章から3章、この科目で4章から6章を学んでいく。ただし、最初の科目を履修していない場合と、履修したが理解不十分であった場合を想定し、この講義の最初の4回で教科書1章～3章の要点の復習を行う。その後、教科書4章～6章の内容を順を追って学んでいく。毎回学習内容振り返りの時間を設け、各人その日のまとめを行う。また、講義中に資産運用のシミュレーション実験をグループで行い、リスクに関する感覚を体感できるようにする。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション 金融商品の基礎知識	
	2	リスクに関する基礎知識の復習①	
	3	リスクに関する基礎知識の復習②	
	4	リスクに関する基礎知識の復習③	
	5	金融商品を読み解く①	
	6	金融商品を読み解く②	

授業内容	7	金融商品を読み解く③
	8	金融商品を読み解く④
	9	中長期運用のリスクシミュレーション①
	10	中長期運用のリスクシミュレーション②
	11	中長期運用のリスクシミュレーション③
	12	中長期運用のリスクシミュレーション④
	13	精度を高めたシミュレーション①
	14	精度を高めたシミュレーション②
	15	精度を高めたシミュレーション③
	16	まとめ
キーワード	金融リスク、確率・統計、資産運用、オプション、リターン、シミュレーション	
教科書・教材・参考書	教科書：吉本佳生『確率・統計でわかる「金融リスク」のからくり』，講談社ブルーバック スB-1784（2012）	
成績評価の方法・基準等	レポート2回（50%×2）の成績で評価する。レポート①は8回の後、レポート②は15回 の後とする。60点以上が合格である。	
受講要件（履修条件）	教科書を利用するの予習と復習に週2時間以上をとること。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	できれば「安全で安心できる社会」のモジュールⅠ科目「リスク社会と社会科学」を学んで いる方が望ましい。	



タイトル「**2014年度シラバス(教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140567005050	科目番号	05670050
授業科目名	●生命の科学(医療現場の安全と安心)		
編集担当教員	松坂 誠應		
授業担当教員名(科目責任者)	松坂 誠應		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松坂 誠應, 浦松 正, 長井 一浩, 梅田 正博		
科目分類	人間科学科目、人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	2年生		
担当教員Eメールアドレス	matsu_report@hotmail.com		
担当教員研究室	医学部保健学科3 F		
担当教員TEL	095-819-7961		
担当教員オフィスアワー	木曜日午前中		
授業の概要及び位置づけ	医療や介護の現場で起こる諸問題を取り上げ、人間の安心と安全とは何かを学習するとともに、自らの生活の危機管理に生かす。		
授業到達目標	医療や介護現場における安心安全の内容とその背景を理解する。		
授業方法(学習指導法)	各教員(5名)の専門分野で話題になっている事象について講義してもらい、講義の後、科目責任者が授業のファシリテータとして講師に質問したり、あるいは学生に質問を促すことで授業の理解を深める。		
	<p>医療技術の進歩は人間の死や疾病への不安を和らげたが、その一方で患者取替え事件や薬害事件に端的に見られるように安心を損なう医療現場の問題への対応が重要性を増している。医療現場ではこうした問題にどのような対応がとられているかを考えることを通して、医療における安心とは何かを問うていく。</p> <p>各講師の授業内容を示す。</p> <p>松坂誠應(医学部保健学科教授)：介護と虐待(松坂, 佐々木で6回担当) 急速な高齢化に伴い介護を要する高齢者も急増している。特に認知症の高齢者は、従来の予測を大きく上回り、300万人を超え(厚労省推計2012.8)今後も増加が続くと見込まれている。それに伴い、介護の現場では高齢者に対する虐待も増加している。虐待には身体的なものだけでなく心理的・経済的虐待などがある。在宅介護における虐待の背景には介護者の介護疲れや社会的孤立、介護や病気についての知識不足などもあり、高齢者だけでなく介護者への支援も必要となる。「介護と虐待」というテーマを通して「安心して暮らせる社会」についても学習する。</p> <p>佐々木規子(医学部保健学科助教)：遺伝相談(松坂, 佐々木で6回担当) 近年、急速に進歩する遺伝医療は、診断、治療、健康管理などにおいて幅広く応用され役立てられている。しかしその一方で、未だ存在する遺伝に対する偏見や差別、遺伝情報の特殊性により遺伝の問題はより複雑になる可能性をもっている。遺伝医療の現状を知るとともに、誰に</p>		

授業内容	<p>も起こり得る遺伝の問題について考える。</p> <p>浦松 正（大学病院助教）：高度医療と安心安全（3回担当） 透析患者数は年々増加傾向にあり、2011年末には30万人を超えた。透析患者は、1回3～5時間の透析を週3回行う人が多く、この週3回の透析の安全性を担保することが重要となる。透析システム、安全な医療用具の供給、スタッフの訓練などにより安全性を高めている。透析医療において患者の安全に対してどのような対応がとられているかを中心に講義する。</p> <p>長井一浩（大学病院講師）：医療の不確実性（合併症と医療過誤）（3回担当） 医療技術の高度化は自然科学としての医科学の進歩を基盤としているが、実際の診療現場で行われる医療行為は、そういった「サイエンス」のみで成り立つものではなく、多様なリスクを伴わざるを得ない。本講では、医療現場における合併症や医療過誤とそのマネジメントへの取り組みを供覧することを通じて、現代医療の根底に横たわる「不確実性」とそれを取り巻く医療者・患者・社会間の諸相を考察する。</p> <p>梅田正博（歯学部教授）：摂食嚥下と口腔ケア（3回担当） 摂食嚥下は動物が生きるための基本的な行動であるが、加齢や脳血管障害、癌の手術後や放射線治療後など、さまざまな原因で摂食嚥下障害を生じることがある。摂食嚥下障害を生じると栄養摂取上の問題だけではなく、誤嚥性肺炎を生じ生命を脅かすという問題がある。ここでは、医療現場における安全・安心という側面から摂食嚥下を取り上げ、同時に誤嚥性肺炎の予防のために最近一般的になってきた「口腔ケア」についても学ぶ。</p>
キーワード	医療、介護、安心、安全
教科書・教材・参考書	講義時に資料を提供する。 随時、講義のテーマに関するURLや参考文献を提供する。
成績評価の方法・基準等	各講義後に提出するレポート（30％）、講義への貢献（30％）、最終講義時に提示する課題のレポート（40％）で判定する。
受講要件（履修条件）	全学モジュールⅠ「安全で安心できる社会」を受講した学生
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140567007050	科目番号	05670070
授業科目名	●人間と環境(安全と安心の街づくり)		
編集担当教員	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子		
科目分類	人間科学科目、人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	eメールにて随時受け付けます		
授業の概要及び位置づけ	安全安心というキーワードを通して、真に豊かな生活を考える		
授業到達目標	真に民主政治を担うことが出来る、自立した個人を育成する		
授業方法 (学習指導法)	課題に関する資料の読み込み、ディスカッション、共通理解		
授業内容	安全安心の街とは何かをあらゆる方面から考え、その中での個人の役割を認識する		
	回	内容	
	1	防災 あなたにとって安全安心の街とは	
	2	防災 具体的な行動	
	3	防犯 無力な存在はどう護られるか	
	4	防犯 あなたは安全な環境にいるか	
	5	防犯 あなた自身の心は安全か	
	6	安全安心の街とは 長崎は住みやすいか	
	7	環境・街づくり 長崎の道路事情	
	8	環境・街づくり ユニバーサルデザインの街	
	9	環境・街づくり 水資源をどう護るか	
	10	環境・街づくり ごみ減量の取組み	
	11	子育て・教育 母親の孤立を防ぐ	
	12	高齢者・障害者 弱者支援とは	
	13	地域での共生を考える	
14	生活の中での安全安心 食品問題と消費者問題		

	15	安全安心の街はどう造られるか
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	植木とみ子著「市役所の女」海鳥社、プリント、行政資料	
成績評価の方法・基準等	課題30%、授業参加度30%、試験40%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること	



タイトル「**2014年度シラバス(教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140568009050	科目番号	05680090
授業科目名	●地球と宇宙の科学(水環境の安全と安心)		
編集担当教員	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二, 夢田 彰秀		
科目分類	自然科学科目、自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	経済(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	s-tanabe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学研究科(総合教育研究棟7F709)		
担当教員TEL	095-819-2659		
担当教員オフィスアワー	12:00~12:50(事前にメールで連絡すること)		
授業の概要及び位置づけ	日本は地球の温帯地域にあり、四季を通じて降雨があるため水には恵まれてきた。しかし、途上国においては、安全な飲料水の確保は喫緊の問題であり、日本に限らず、先進国の水処理技術の導入が急がれている。この講義では、工学研究科の水環境技術者育成に関わる教員により、水環境に関する技術の現状、問題点を整理し、日本の持つ先進的なモニタリング技術、アセスメント、膜や生物処理を使った最先端水処理技術などを理解することで、普段気づかない水環境の安全・安心について考える。		
授業到達目標	水環境に関する問題について解説できる。水環境のモニタリング技術、廃棄物問題、水処理技術について説明できる。		
授業方法(学習指導法)	講義を基本とする。必要に応じてアクティブラーニング手法を取り入れる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション：有明海や水俣湾における水環境の現状	
	2	水環境モニタリング技術について	
	3	水道と水源池	
	4	水源を守る	
	5	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(1)	
	6	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(2)	
	7	化学薬品、重金属などの危険物質の現状と対策について	
	8	世界の水環境問題と膜分離技術の貢献について	
	9	＜水を造る＞膜分離技術概論－現状と展望－	
	10	＜水を再生する＞膜分離技術概論－現状と展望－	

	11	水環境生態系の保全と修復
	12	環境シミュレーションの方法と数値計算の原理
	13	コンピュータによる数値計算の手続き
	14	環境問題へのシミュレーションの応用例
	15	水環境の安全・安心に関する総括と評価試験
	16	評価結果に対する指導
キーワード	水、膜、廃棄物、水環境、分離、生物処理、シミュレーション	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要があればプリントを配付し、参考書を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	講義への積極的参加(40%)、レポート課題の評価(60%)の総合点で評価する。	
受講要件(履修条件)	特になし	
備考(URL)		
学生へのメッセージ		

